

その いずみの園だより vol. 67

2016.8.30

夏季号



それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは愛である。コリントの信徒への手紙 I13:13

社会福祉法人 九州キリスト教社会福祉事業団
中津総合ケアセンターいずみの園

基本理念

神と人とに仕えるキリスト教の愛と奉仕の精神を基本理念とする
①アメニティ(快適主義) ②ヒューマニティ(人間主義) ③ローカリティ(地域主義)

〒871-0162 大分県中津市永添 2744 TEL0979-23-1616 (代)
http://www.izuminosono.jp E-mail:sogocare@deluxe.ocn.ne.jp



ワークセンターシャローム (就労継続支援A・B型) 農作業風景

健康寿命を延ばす努力

世界における長寿国ナンバーワンの日本も、健康国ランキングでは世界の中では第5位となっている。1位はシンガポール、2位がイタリア、ついでオーストラリア、スイスの順となっている。

日本人の高齢化が進行する今、どれだけ元気に動けて健康に長生きするかがこれからの課題となっている。そこで最近言われているのが「健康寿命」をいかにして延ばすかということである。

健康寿命は高齢期だけの健康問題ではなく、生涯にわたるライフステージに応じた個人の健康づくりが極めて大切と言われている。個人の健康は家庭や学校、職場、地域社会など社会環境の影響を大きく受けるので幅広い視点からの健康対策が必要となり、規則正しいバランスの取れた食事や適度な運動、また社会参加などが健康維持にとって大切な要素であるといわれている。

団塊世代生まれの自分もあと数年で後期高齢者となる年齢であり、少しでも長く健康で過ごしたいと思っている。自分が心がけている健康法の一つが、ストレスを抱え込まない柔軟な対応力である。それは問題に直面したときは抵抗せず、「ま、いいか」と受け入れたら、周りに流されず「人それぞれ」と自分の身に合った生活を心がけ人生のんびりと過ごすこと。これが健康の秘訣ではないかと思いついて行っている。

もう一つが健康のためと12年前から始めたランニングである。数年前からハーフマラソンやフルマラソンを走ることが楽しみとなり毎年挑戦している。今年3月に子供家族全員と大阪城周辺公園のリレーマラソンに参加し、ランニングを通じて家族とも楽しいひと時を過ごすことができ、少しでも長く健康でマラソンに挑戦したいと思っている。



社会福祉法人
九州キリスト教社会福祉事業団

監 事
金 枝 豊 治

2016年度の第1回評議員会・理事会が開かれました。

2016年度の第1回評議員会及び第1回理事会が、5月30日(月)10時30分から、「地域交流ホームいずみ館」で行われました。



第1回評議員会の様子

午前中に開催された評議員会では、冒頭に理事長から、「社会福祉法人の改革が今後進められて行くことになると思うが、当法人は先駆的に取り組み、地域の中の社会福祉法人としてその役割を果たしている。地域に無くてはならない社会福祉法人、また、セーフティネットとしての役割をもう一度見つめ直しながら、事業を進めていきたい。」との挨拶がありました。

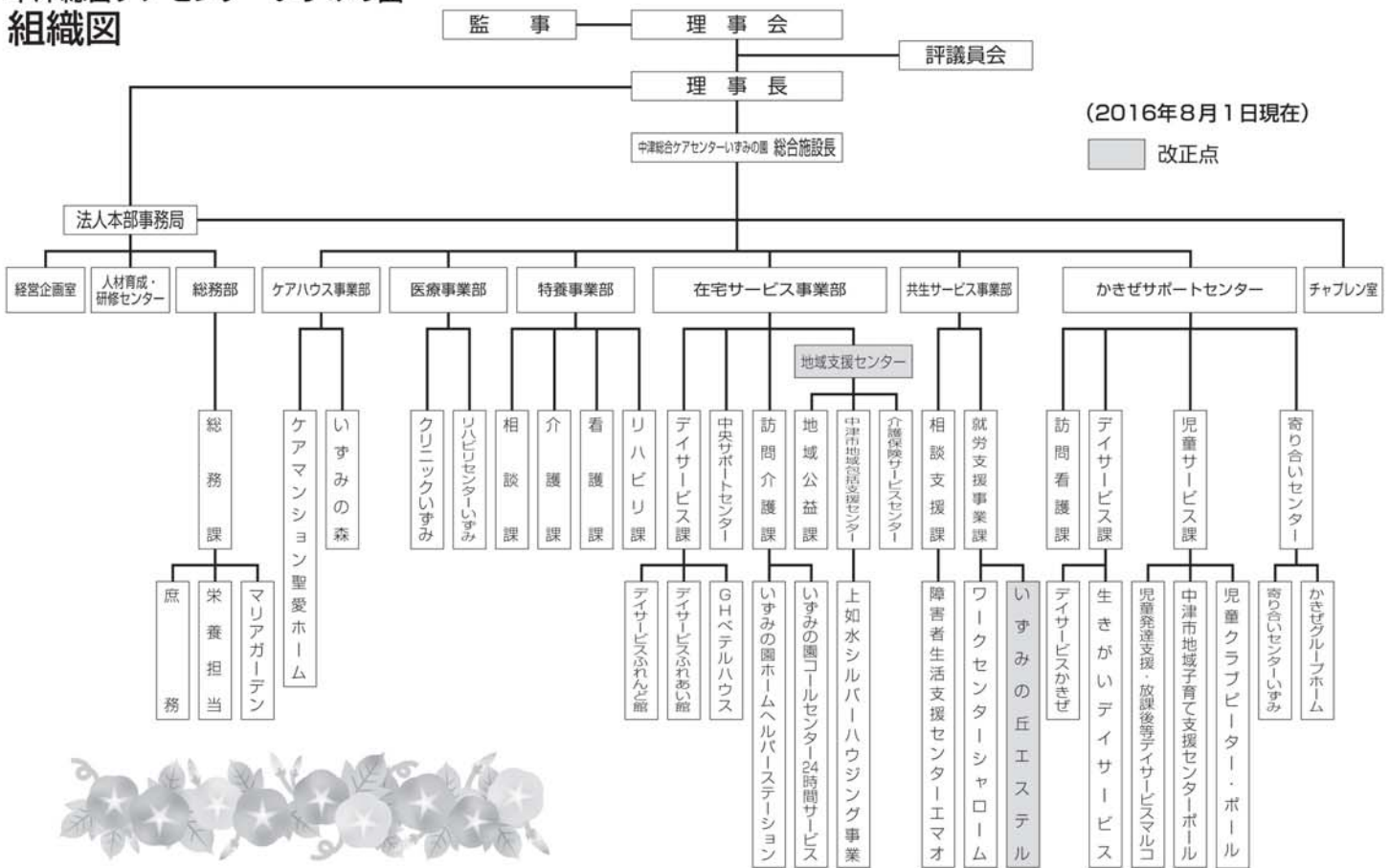
続いて、評議員会としての審議に入り、監事監査報告を受けての2015年度事業・決算報告、定款の変更、規程・規則の改定についての評議をいただき、また、報告事項として①行政監査報告 ②行政からの委託事業 ③事業1周年の経過報告(サマリア館、地域公益課) ④事業3年目の経営報告(シャローム)等がなされました。

午後からは理事会が開催され、評議員会に出された審議事項に基づき、監事の業務・財務評価および各理事の発言と事務局よりの説明のち採決となり、各審議および報告事項について全会一致で了承されました。

なお、3月31日に成立した改正社会福祉法に関する当法人の対応については、今後発出される厚生労働省政省令・通知等を俟って、来年4月1日の施行までに、適宜、理事会・評議員会を開催する旨の説明が事務局からあり、15時30分に散会しました。

(法人本部署局)

中津総合ケアセンターいずみの園 組織図



組織の変更

- ① 組織
 - 8月1日付 就労継続支援課の下にいずみの丘エステルを置く

人事異動

2016年4月18日以降

- ① 異動一般職
 - 6月6日付 山下 裕子 ふれんど館 看護師
 - 8月1日付 三澤奈津子 いずみの丘エステル 生活支援員
 - 8月1日付 大島加奈美 いずみの丘エステル 生活支援員
- ② 新採用
 - 5月1日付 後藤 里紗 児童サービス課 児童指導員
 - 6月1日付 三原 萌華 寄り合いセンターいずみ 介護員
 - 川端 洋美 児童サービス課 児童指導員

- 6月6日付 浦野 光代 看護課 看護師
- 6月15日付 重松 由美 ワークセンターシャローム 生活支援員
- 6月16日付 梶原寿恵子 中央サポートセンター 介護員
- 6月27日付 垣添 元子 児童サービス課 児童指導員
- 7月1日付 曹 承珠 ペテルハウス 介護員
- 朴 志成 デイサービスふれんど館 介護員
- 神木 直美 介護課 介護員
- 西谷 恵 介護課 介護員
- 7月15日付 岩武 恭子 介護課 介護員
- 7月25日付 土井 秀平 デイサービスかきぜ 介護員
- 8月1日付 右田 翼 介護課 介護員
- 中村より子 デイサービスふれあい館 看護師
- 阿部美智子 デイサービスふれんど館 介護員
- 8月5日付 高榎 典子 訪問介護課 ヘルパー
- 8月8日付 梅本 俊一 介護保険サービスセンター 介護支援専門員

(以上2016年8月8日まで)



サマリア館開設1周年を迎えて



かぎゼサポルトセンター
センター長 豊田 毅士



しめ縄づくり体験の様子



児童クラブ夏休みの様子

「福祉の里センターサマリア館」は、2015年4月に開所いたしました。その後、旧施設の解体、渡り廊下の増設工事などをを行い、ご利用者、近隣住民の皆様にはご迷惑をおかけ致しましたが、子ども達が遊べる園庭となり、夏休み期間中も、元気に遊んでいます。また、駐車場も増設し、以前より利用しやすくなりました。サマリア館では、児童、障がい児者、高齢者、地域住民の方々が、①多世代間の交流②共生社会の実現③次世代への文化伝承を目標としています。多世代の方が訪れ、ホールには子どもたちの元気な声が響き、それぞれの目的により、運動、おしゃべり、相談を行っています。

また、蛸瀬地区の住民の方が立ち上げた運動サロン「あじさいクラブ」の活動の拠点として毎週木曜日に20名以上の方が運動に訪れています。昨年は、地域住民の方が講師となり、児童に向けてしめ縄づくり教室や餅つきを行いました。これからも様々な取組を行い、地域の皆様が安心して暮らせるための拠点となるよう事業を推進して参ります。

韓国の大学卒業生がいずみの園で活躍しています。



今年2月に、韓国の大学から学生9名と教授1名が「いずみの園」へ実習にいられました。そのうちの2名の学生（韓国の大学を卒業後、韓国の社会福祉士資格を取得。）が、7月1日よりワーキングホリデーを利用し、「いずみの園」の「デイサービスセンターふれんど館」と「グループホームベテルハウス」で活躍しています。1ヶ月が経ち、お2人に話を聞きました。

パクジソンさん

私は韓国から来たパクジソンです。いずみの園で働いてから1ヶ月が経ちました。まだ日本語が下手で、分からないことが多いです。しかし、多くの職員の皆さんとご利用者の皆さんが助けてくれ、適応することができました。

今より一所懸命勉強し、習い、いずみの園の大きな助けになりたいです。これからもっと期待される人になります。頑張ります。ありがとうございます。

ジヨスンジュさん

グループホームで1ヶ月間仕事をしながら多くのことを習ったけど、まだまだ分からないことが多いです。ご利用者さんと職員さんに申し訳ない時がたくさんあります。しかし、知らないことがある時、みなさんに親切に教えてもらって早く仕事に慣れることができました。

外国人ですけど、ご利用者さんとそのご家族の皆さんが私を好きでいてくれて、職員の皆さんも私に関心を持って色々手伝ってくれて働くのがとても楽しいです。今の心をそのまま最後まで一所懸命努力して、いずみの園のみなさんの気持ちに応えたいです。

「第72回日本キリスト教社会事業同盟総会・研修会」が中津市で行われました。

「第72回日本キリスト教社会事業同盟総会・研修会」が、6月9日（木）、10日（金）の2日間にわたり中津市で行われ、全国から76名の方々が参加されました。

初日は中津市内ホテルの会場において、廣安中津教会牧師による開会礼拝に始まり、続いて「日本キリスト教社会事業同盟」稲松義人理事長の開会の挨拶がありました。

次の講演では、NPO法人放僕理事長奥田知志氏により、「いのちの響き」人は一人では生きられない」と題して行われ、その後総会を挟み、奥田先生が座長を務める生笑一座（いきわらいちぎ）による公演が行われ、ホームレス状態に置かれた方の当事者としての生の声を聴くことができました。

2日目は、いずみの園の事業所見学を行い、その後、当法人富永理事長により、「信望愛ーいずみの園の地域包括ケアの取り組み」と題して、福祉の地域（街）づくりを目指す諸活動や、当園の地域公益事業の取り組みについて講演が行われ、おわりに会場で参加者の記念撮影をもって、今回の主題テーマ「キリスト教社会福祉は今の地域にどう貢献するか」その実践と方法を学ぶ」の総会・研修会を終了しました。（法人本部事務局）



2日目 富永理事長の講演



1日目の稲松理事長の挨拶

ひろ ば いずみの園広場

ご利用者の声



訪問看護ステーション

ご利用者 大倉 鈴子様

私は平成二十六年に家族と誕生日祝いの食事に行こうとした際に押し車ごと横に倒れ、大腿骨が折れ、川島整形外科病院として別府リハビリセンターに入院しました。

退院後いずみの園訪問看護ステーションを利用して、自宅でリハビリを行うことになりました。ケアマネジャーさんと話し合い、週2回のリハビリと入浴でお世話になっていきます。スタッフが自宅に来てくれるので移動の負担もなく助かっています。いつも丁寧な対応をして下さり体調も気にかけてくれますし、些細な変化にも気づきアドバイスをくれます。リハビリの際の楽しい世間話もとても楽しみで元気をもらっています。また、帰る際に「水分をとって下さいね」などと優しく声をかけて手を振ってくれるのがとてもうれしいです。

今ではリハビリのお陰で、車イスにも関わらず骨折前まで楽しんでいた温泉旅行や趣味のカラオケを再び友達と楽しむ事ができる様になりました。

今年で九十歳になりましたが、若い皆様にお世話になっている内に歳の事は頭からなくなりました。地域のお祭りでのおもちつきも楽しみのひとつです。スタッフの皆様には常にありがとうの感謝でいっぱいです。

これからも共にリハビリを楽しみながら更に長生きを目標に励みたいと思います。



ご自宅でリハビリをされる大倉様

ご利用者ご家族の声



児童クラブピーター

濱田華帆さんご家族 濱田 淑子様

学校が終わると娘は毎日『児童クラブピーター』に帰ります。ピーターに帰ると、支援員さんが「お帰り」と迎えてくれます。共働きの家庭にとってはとてもありがたい存在です。何より、ピーターを利用することができてよかったなど感じるの、その環境です。

ピーターは同じ敷地内に高齢者デイサービス、児童発達支援・放課後デイサービス事業が併設されています。交流行事もあり、「今日はおばあちゃん達とご飯を食べたよ」「今度、おばあちゃん達の前で踊りを踊るんよ」などと話しています。核家族の多い今の時代、世代交流は子ども達には、とても貴重な体験だと思います。

また、『地域子育て支援センターボール』ができてからは、赤ちゃんとのふれあいもあり、娘はそれがとても楽しいようです。

そして、ピーターの園庭にある2本の大きな木です。夕方、お迎えに行く時、子どもたちがその大きな木の上から顔をのぞかせています。木登りができる環境があることがとても素敵だなあと思いました。帰りの車の中、ピーターでの出来事をいつも楽しそうに話をしてくれます。

学校や家庭では得られない様々な体験を通して、子どもたちの成長を支えてくださる職員の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。



娘さんと

ボランティアグループ『2毛作会』の活動



ふれんど館にて①



ふれんど館にて②

いずみの園ボランティアグループ『2毛作会』は、定年後にあっては、まだまだ体力・気力とお元気であり、社会に貢献したいと考えている方で、地域の中でボランティア活動をしたいが、どうしていいかわからない方に、これまでの仕事以外の生きがい・やりがいを見出す場を提供するため、「いずみの園」が声を掛け、2015年11月13日に発足しました。(会の名称の由来は、人生「2毛作」という意味と、中津のこの地域は古来、「両毛上毛」・「下毛」と称したことから)

現在『2毛作会』のメンバーは13名で、「いずみの園」の特養、デイサービス、グループホームなどの事業所で、行事や日常生活の中でボランティアを行っています。また、毎月1回最終の木曜日を「2毛作会連絡協議会」とし、ボランティアを行っている感想や意見交換、また「いずみの園」からの情報提供の場としています。

なお、本年8月より「いずみの園」本館内に『2毛作会』会員の部屋を用意し、何時でも気軽に集まれる場としています。(人材育成・研修センター)



サマリア館にて

シリーズ
園内の広報誌

広報誌③

ワークセンターシャローム「シャローム通信」

就労継続支援事業所「ワークセンターシャローム」では年に3回、ご利用者、ご家族向けに「シャローム通信」を発行しています。「ワークセンターシャローム」での出来事、行事、勉強会、事業の紹介などを掲載しています。

シャローム通信

号外 <シャロームの選考方針>

■第36回 大分県 ゆうあいスポーツ大会 2016.6.18
2016年6月18日(土)大分市の大分銀行ドームにてA型利用者4名、B型利用者2名が「ゆうあいスポーツ大会」に参加しました。いずみの園としても2回目の参加になりました。今年で36回を迎える「ゆうあいスポーツ大会」は県内48か所の施設から、1241人参加。競技はソフトボール投げ、立お稽ぎ、フライングディスクなどの12種目で競われました。スポーツ大会に参加することを目標に、利用者は、「それぞれの日々の作業訓練を一生懸命取り組み、また来年も参加したい」と意気込んでいます。



いずみの園の代表として、頑張ってください! 園長 藤原 幸子

ゆうあいスポーツ大会

2016年度、シャロームの選考方針

2016年度、シャロームの選考方針

2016年度、シャロームの選考方針

広報誌④

訪問介護課「いずみの園ヘルパーステーションだより」

訪問介護課では「いずみの園ヘルパーステーションだより」を、ご利用者、ご家族の方及びケアマネジャー、病院のソーシャルワーカー向けに、2ヵ月に1回発行しています。食中毒や熱中症などの日ごろ気をつけて頂きたいことや、定期巡回・随時対応型訪問介護看護についての説明を掲載しています。

いずみの園ヘルパーステーションだより

熱中症の分類と対処方法

いずみの園ヘルパーステーションの3原則

ヘルパーステーションのイメージ

ヘルパーステーションのイメージ

経口移行への取組 ～あの笑顔をもう一度～



特養事業部 介護課
主任 河野 十萌
栄養サポート委員
リハビリ課 東 久美

昨年の12月上旬、当園入居者のM様(仮称)が脳梗塞等の要因により口から食事が摂れなくなり、やむを得ず経鼻経管栄養の措置をとるようになりました。普段から食べることをとても楽しみにされている方でしたが、口から食事ができなくなるとは、普段から寄り添っているユニット職員も感じていました。そこで、「もう一度口から食べてもらいたい」「口から食べられる可能性があるのではないか?」という想いを、特養多職種で構成されている「栄養サポート委員会」へ相談しました。

それから、口から食べていただくことを目標としたりハビリが開始となりました。主治医の指示の下、嚥下機能検査(飲み込みテスト)を何度も行い、様々なリハビリに取り組んだ結果、約7ヵ月後には無事以前のように口から食事を摂ることができるようになりました。M様が満面の笑みを浮かべられ「嬉しい」と言われたことは、関わった職員にとって最高の喜びとなりました。

最後になりましたが、私たちの取組に心よく協力して頂いたご家族の方へ感謝申し上げます。



口腔ケアの様子



食事介助中の様子

熊本災害派遣福祉チームの活動に参加しました。



寄り合いセンター
課長 友清 賢

5月23日～27日の5日間、熊本県益城町へ災害派遣福祉チームの一員として災害派遣に参加しました。

災害派遣福祉チームとは東日本大震災を機に発足され、総合的な福祉サービスの提供をチームで連携して行うために設置されます。震災発生直後は、衣食住の最低限の生活基盤の確保が求められますが、その混乱が一段落した後の、精神的なケア等を担うこととなります。

実際の活動内容としては、益城町にある10か所程度の避難所を6名1チームで手分けして訪問し、避難者への心のケアや自衛隊の簡易浴槽での入浴介助、被災した福祉施設への業務補助等を行いました。

被災者支援を行っている行政や福祉施設のスタッフ自身も被災している状況であり、我々県外からの支援も重要であると感じました。

今回の活動で一番印象に残った言葉は、「まさか熊本でこんな地震が起きるなんて夢にも思わなかった」という高齢者の言葉です。

改めて、私達が生活する中津の地域でも地震を含めた防災対策や避難誘導等の具体的な整備を進める必要性を感じました。



被災地の様子①



被災地の様子②

「シニアレジデンスいずみの森」で10周年記念行事を開催しました。

戸建て有料老人ホーム「シニアレジデンスいずみの森」は2006年の2月1日に開設し、今年で10周年を迎えました。それを記念し、5月20日(金)に「いずみの森 パウロ館」にて、10周年記念行事を開催しました。

はじめに当法人の堤チャップレンによる礼拝が行われ、いずみの森の入居者と職員合わせて11名が参加し、10周年のこままでの歩みに感謝の祈りを捧げました。

次に中津市を中心に活動するアンサンブルグループ「マリーゴールド」の皆様によるミニコンサートがあり、いずみの森入居者のご家族や、聖愛ホームの入居者もお見えになり総勢29名で、歌と楽器の織り成す美しいハーモニーに酔いしれました。

その後、10周年記念の食事が開催され、テーブルいっぱいのご馳走に皆で舌鼓を打ちました。

美しい音楽に美味しい料理と、とても楽しい時間を過ごすことができました。

(シニアレジデンスいずみの森)



記念ミニコンサートの様子

ワークセンターシャロームの利用者が、第36回大分県ゆうあいスポーツ大会に参加しました

2016年6月18日(土)大分市の大分銀行ドームにて大分県・大分県知的障害者施設協議会・大分県ゆうあいスポーツ大会実行委員会が主催する「ゆうあいスポーツ大会」にA型利用者4名、B型利用者2名が参加しました。

この大会は「知的障害者の体力向上を図ろう」と毎年この時期に開催されているもので、シャロームとして今回で2回目の参加となります。

今年はい県内48か所の障がい児・者施設から、1241人が参加。競技はソフトボール投げや、立ち幅跳び、フライングディスクなどの12種目で競われました。

参加されたご利用者は、「また来年も参加したい」と意気込んでいました。

(ワークセンターシャローム)



入場の様子

園内の花、木を探索

「いずみの園」の敷地内にはたくさんの花や木が植樹されています。その花、木をシリーズで紹介します。

●アサガオ (朝顔)

アサガオは、ヒルガオ科サツマイモ属の一年性植物です。日本では「最も発達した園芸植物」として知られ、いずみの園でも「デイサービスセンターふれんど館」などで植えられています。



その花はピンクや紫、白色などとてもカラフルで、まだ陽が昇り切らない早朝に一斉に咲き、陽が昇り暑くなってきた頃は萎んでしまいます。

まだ気温も上がっていない夏の早朝、喧しく鳴く蝉の声、外で元気に遊ぶ夏の子どもたちと、満開のアサガオ。懐かしい日本の夏の風景が思い起こされるそんなアサガオは、日本の夏を代表する花の一つだと言えるでしょう。

聖書のことば・人の言葉



堤 健生

「寄進ができて、私など何者なのでしょう、私の民など何者でしょう。全てはあなたから頂いたもの、私たちは御手から受け取って、差し出したにすぎません」(ダビデ王の言葉)

旧約聖書 歴代誌上 29章

故郷は遠くにありて思うもの、どうして故郷へ帰るのでしょか。自分が育った時に見た山や川。街の景色とともにそこには多くの人とのお会いと様々な思いがありました。帰郷すると自分を待っていてくれたかのような気持ちにさせられます。当時は気が付きませんでした、自分は沢山のお恵みを頂いていたことに気がつきます。当たり前のように思ってしまう命も頂いたもの。今まで歩んだ時間も何もかも与えられて受け取ったもの。何と多くのものを。

売店「えがおや」は、夏も元気に営業中です。

2016年3月より、リニューアルオープンした「いずみの園」の中売店「えがおや」です。毎日暑い日が続いていますが、「えがおや」はアイスクリームや冷たいジュースなど取り揃え、皆さまのお越しをお待ちしております。



売店えがおやの様子

「えがおや」は、現在は毎週月・火・木・金・土、時間は午前11時から午後3時まで営業しており、どなたでも気軽にご利用いただけます。品物は食品から、衣料品、日用雑貨なども取り扱っており、また「こんな商品を置いてほしい」などの要望も承っておりますので、いつでも声をかけて下さい。

(経営企画室)

第7回(こども)参観日を開催しました。

第7回を数える「いずみの園」こども参観日」が、8月10日(水)の午前中に開催され、14名の子どもたちが参加してくれました。

参加者は朝の挨拶のあと、まず「いずみの園」の施設内を見学しました。見学後は『福祉ミニ講座』と題して、「いずみの園」の職員協力のもと、3つの講座を開きました。

「気持ちの良いブラッシング」講座では、正しい歯磨きの方法と、歯磨きの大切さについて勉強しました。「認知症ってなあに」では、認知症と「うつ病」について学びました。「福祉用具を作ってみよう」のコーナーでは、体の不自由な方が靴下を簡単にはくための道具を作りました。

実際に様々な体験をし、どのようなことを感じてくれたか分かりませんが、彼らが少しでも福祉に興味を持ち、人の傷みが分かる素敵な大人に成長してくれたら嬉しいです。参加してくれた皆さん、ありがとうございました。

(総務部総務課)



参加者の集合写真

職員の趣味クラブ活動

「私の余暇の過ごし方」

介護保険サービスセンター 課長 大島 伸城

今年6月に情報共有ツール(パソコン)を使った職員間の情報共有の掲示板に「趣味・クラブ・サークル活動の掲示板」というコーナーができました。これはワーク・ライフ・バランスの一環として、運動や趣味などの参加者募集、活動のお知らせなどの情報を提供する場所です。

私は2年前初めて別府市の鶴見岳(標高1,375m)登山を職場の上司と職場外の人と経験しました。その時に仕事以外に無我夢中で挑戦する楽しさを感じました。今年5月に参加者を募集し、「いずみの園」の職員と外部の方の合計6名で登山を行いました。職場では仕事の話が主ですが、趣味活動であれば山の景色などの会話を通して多世代で楽しみを共有する事ができます。その結果、コミュニケーションの幅も広がり、仕事に良い影響があると感じています。

是非この掲示板を活用して、より良い人間関係、仕事や余暇の充実を図って頂ければと思います。



編/集/後/記

「人に接する時は、暖かい春の心。仕事をすると時は、燃える夏の間。考える時は、澄んだ秋の心。自分に向かう時は、厳しい冬の心。」とは、関西の会社経営者である飯島輝明氏の言葉である。

また今年も暑い夏がやってきたが、今年の夏は我ががいずみの園に「いずみの丘エステル」という新しい事業が加わった。

ベルシア語で「星」の意味を持つこのエステルは、障がいのある方たちの通所の事業所だ。ご利用者に接するときは暖かい春の心、仕事に対する情熱は燃える夏の間、利用する方たちの希望の「星」となるよう、頑張っていたきたい。

そして仕事でたくさん汗をかいたあとは冷たいビールが美味しい季節であるが、つい飲み過ぎてしまい、奥さんに怒られてしまう。奥さんが私に向かう時は、厳しい冬の心である。(末)



白見・原田・芥川・小橋・末延・長岡・有馬・豊田 (広報委員会全メンバー)

「いずみの丘エステル」の開所式が行われました。

2016年8月1日より生活介護「いずみの丘エステル」が開所となりましたが、それを記念し、同年7月28日(木)10時より「開所式」を行いました。

場所は「いずみの丘エステル」にて、19名の法人関係者が参加しました。第1部は奉獻式として、堤チャブレンが司式者を務め礼拝を守りました。第2部の開所式では初めに富永理事長より挨拶があり、次に多田玲子理事、最後に来賓として当法人の障がい事業のスーパバイザーの大分大学佐藤先生よりそれぞれ祝辞を頂きました。

「いずみの丘エステル」は民家を改修して開設した、障がいのある方のための通所の生活介護事業所で、普通の家庭に近い雰囲気を持つているのが特徴です。加えて、周囲を木々に囲まれ、自然豊かな環境に恵まれています。

「エステル」を利用される方の日々の暮らしが少しでも豊かになるよう、職員一同全力でサポートしていきたいと思えます。

(いずみの丘エステル)



佐藤先生の祝辞



富永理事長の挨拶



礼拝の様子



屋内居室



エステルの外観②



エステルの外観①

上ノ原地区 合同慰霊盆踊り



夕暮れの盆踊り会場

8月16日に、毎年恒例の上ノ原地区との合同慰霊盆踊りが行われました。当日の日中はあいにくの雨に見舞われましたが、夕方には晴れ、地域の方々の協力のもと櫓の組み立てや提灯の設置を行い、無事に会場が完成しました。



ご利用者も一緒に

浴衣姿やハッピー姿の「いずみの園」のご利用者、職員が夕暮れとともに集まり始め、地域の方々も少しずつ会場にお越しいただき、空が薄暗くなる頃に大きな盆踊りの輪が出来ていました。盆踊りの後は近くで打ちあがる花火を觀賞し、その後抽選会を開催し盆踊り大会が終了、とても賑やかな楽しい一夜となりました。今年も上ノ原地区の方々との協同のもと、合同慰霊盆踊りを開催することに対して感謝致します。

また来年も、皆さんと一緒に楽しめる地域との行事を楽しみにしたいと思います。(特養事業部)

〈改訂版〉魅力発信書が完成しました。

当法人では、2014年4月にいずみの園の各施設及び3つの保育園を紹介する小冊子として、「社会福祉法人九州キリスト教社会福祉事業団 魅力発信書」を刊行いたしました。それから2年が経過し、一部の情報が古くなり、また新規事業の開設等もあり、それに伴い情報を最新のものに更新した「改訂版」魅力発信書」を作成、本年6月に刊行いたしました。

デザイン等に大きな変更はありませんが、写真やデータの数値などを最新のものにし、また当法人が現在力を入れて取り組んでいる「地域貢献活動」に関するページが増えているなど、細かい変更が随所に施されています。

内容は「いずみの園のホームページ」でもご覧いただけます。実際の冊子は「いずみの園」で配布しています。(経営企画室)



予告

第18回 いずみの園フェスタ開催

日時 10月15日(土) 午前10時～午後2時

会場 いずみの園 中津市永添2744



イベント盛り沢山

- 屋台コーナー
- バザーコーナー
- わんぱくコーナー
- 健康・介護保険コーナー
- もちつきコーナー
- 顔写真入りカレンダー作成
- 小笠原古流茶会(茶席体験)

※イベント・ステージは変更になる場合があります。

ステージ

- 大正琴 琴好会
- 藤間重淑社中子ども舞踊
- 大分県糸口学園 糸口太鼓
- おだちマン倶楽部
- 中津市民吹奏楽団
- よさこい踊り 大分舞華軍団おかみさんクラブ
- 琉球國祭り太鼓(大分支部)
- オカリナ同好会トトロ

協賛/中津ライオンズクラブ